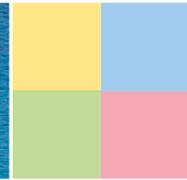


生命保険文化センター



2024年度 活動のあらまし

Japan Institute of Life Insurance

目次

ごあいさつ	2
事業の概要	3
2024年度 トピックス	4～5
消費者啓発・情報提供活動	6～14
学術振興事業	15～18
調査・研究活動	19～20
役員・組織図、活動小史	21
財務諸表	22
会員会社	裏表紙

記載対象期間

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)

※一部、2023年度・2025年度の活動内容も記載しています。

ホームページ

当センターホームページでは生活設計情報、生命保険のしくみ等、充実したコンテンツを公開しています。あわせてご利用ください。

<https://www.jili.or.jp>

生命保険文化センター

検索



2015年に国連で採択されたSDGsでは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。生命保険文化センターは、すべての人が、社会保障制度や生命保険の役割を理解し、生活設計を通して将来起こりうるリスクについて自身で考え、備えることができるように公正・中立な立場から情報提供をしています。

ごあいさつ



評議員会会長
家森 信善



代表理事
小原 広之

当センターは1976年の設立以来、生命保険制度の健全な発展のために、広く関係する消費者啓発・情報提供活動や、学術振興事業、調査・研究活動を行ってまいりました。本冊子では、2024年度における当センターの様々な活動をご紹介します。

「消費者啓発・情報提供活動」においては、自助・共助・公助や民間保険、リスク管理等といった中学校・高等学校の学習指導要領の内容などを踏まえ、中学生・高校生・大学生向けの生活設計・生活保障教育の拡充に努めてまいりました。例年実施しております「中学生作文コンクール」においては、動画提供や中学生向け授業の活用等を通じ、更なる普及・浸透を図りました。また、今回新たにアクティブ・ラーニングを取り入れたカードゲーム教材「ソナソナ」を作成しました。引き続き、中学生からシニア層までの各世代に対応した教育・啓発に取り組むとともに、ホームページや小冊子に加え、YouTubeやX(旧Twitter)といったSNSを活用し、信頼できる最新情報の提供にも努めてまいりました。

「学術振興事業」においては、研究会運営や研究助成等の研究者への支援を通じて、生命保険に関する研究の活性化に注力しました。2023年度に発足した2年間の特別研究会「家族が多様化する時代の保険のあり方に関する研究会」を引き続き実施し、多様なライフコースを前提とした生命保険の役割等を幅広く検討しました。また、保険学セミナー等を開催・運営し、学術交流の促進に取り組んでまいりました。

「調査・研究活動」においては、第21回「生命保険に関する全国実態調査」の調査結果や分析結果を公表しました。また、2025年度に実施する「生活保障に関する調査」の調査内容の検討・調査票の策定を行いました。

昨今、金融経済のグローバル化やAIの発展により、経済活動が世界規模で瞬時に結び付くようになっていきます。また、技術革新や社会経済情勢の変化は、働き方などのライフスタイルを変容させ、多様なものになっています。このような中、多様化・複雑化するリスクに対応し、それぞれの生き方や価値観に合わせた豊かな人生を送るためにも、金融・保険リテラシーはこれまで以上に重要なものとなってきています。

このような中、当センターにご期待いただく役割はますます重要になっていると認識しております。当センターは2026年1月5日に創立50周年を迎えますが、これからも皆さまからのご期待に応えられるよう、社会の変化に柔軟に対応しつつ、引き続き、生命保険制度の健全な発展のため、上述のような諸事業を行い、国民生活の安定向上、国民の利益の増進に寄与してまいります。

本冊子が、当センターの活動に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

事業の概要

活動目的

生命保険制度の健全な発展のための諸事業を通じて、国民生活の安定向上、国民の利益の増進に寄与する。

【消費者と生命保険業界の相互理解の促進】



当センターでは、「消費者啓発・情報提供活動」「学術振興事業」「調査・研究活動」の3つを柱に公益事業を行っています。

1. 消費者啓発・情報提供活動

6～14ページ

消費者が個々の生活設計の中で生命保険を適切に利用できるよう、生命保険学習会や小冊子、ホームページ等、多様な方法で生命保険に関する啓発活動や情報提供活動を行っています。

- 中学生作文コンクール
- 教員向け活動
- 生徒・学生対象の生命保険実学講座
- 社会人対象の生命保険学習会
- 学校教育用副教材の提供
- 消費生活相談員等への情報提供(勉強会の実施等)
- 消費者団体等との連携・交流
- 出版活動(小冊子による情報提供)
- ホームページによる情報提供
- 動画・X(旧Twitter)による情報提供
- 相談対応

2. 学術振興事業

15～18ページ

生命保険に関する学術振興のために、各種研究会の運営・研究助成等を行っています。

- 学識者・専門家等をメンバーとする生命保険に関する研究会の運営
- 若手研究者の育成のための研究助成
- 学者・研究者・専門家向け学術書籍の発行・ホームページへの掲載

3. 調査・研究活動

19～20ページ

生活保障に対する意識や生命保険の加入状況等を各々3年ごとに調査し、情報提供しています。

- 生命保険に関する全国実態調査
- ライフマネジメントに関する高齢層の意識調査
- 生活保障に関する調査(2025年度実施予定)

2024年度 トピックス

■カードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」の作成

2023年11月に締結した保険教育に関する包括連携協定に基づき、日本損害保険協会と共同にて、高校生を主な対象としたカードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」を作成しました。

病気・ケガ、死亡、介護、事故や自然災害など、年代ごとに人生の中で起こりうる様々なリスクを認識し、どのように備え、その備え方にはどのような手段があるか理解するために、民間保険（生命保険・損害保険）や社会保険について学ぶことができる教材です。



(1) 本教材の特徴

1グループ2～7名で行うカードゲーム教材となっており、グループワークなどでの使用が可能です。アクティブ・ラーニングに最適です。また、「約40分のロングVer.」と「約25分のショートVer.」があり、授業のコマ数や授業時間などに合わせた利用が可能となっています。

(2) 各種カードについて

【イベントカード】

20代～70代まで人生で起こりうるさまざまなリスクが書かれたカード。



【安心カード】

さまざまなリスクに備えるために必要な保険が書かれたカード。



【ボーナスカード】

預貯金（所持金）が増えるうれしいカード。



※生徒用ワークシート、教員用導入説明スライド、教員用導入説明動画及び教員用手引書といった各種サポートツールをご用意しています。

本教材に関する
詳細はこちら



■「教員対象セミナー」冬季開催

2006年度より日本損害保険協会との共催で、全国の中学校・高等学校の家庭科教員及び社会科・公民科教員を対象に開催している教員対象セミナーにおいて、例年開催している夏季だけでなく、2024年度は初めて冬季にも開催しました。(P6掲載)



2024年度 トピックス

■第21回「生命保険に関する全国実態調査」報告書発行

生命保険の加入実態を中心に、生命保険・生活保障に対する考え方等を3年ごとに時系列で把握することを目的に、1965年から実施しています。2024年度からは、既存の2人以上世帯を対象とする調査に加え、新たに単身世帯を対象とする調査も実施しました。(P19掲載)

2024年4～5月にアンケート調査を実施し、11月に調査結果の速報版を、2025年1月に報告書を発行しました。

■研究助成成果論文 優秀論文表彰式・研究報告会 開催

生命保険及び関連する分野の若手研究者支援の一環として、受賞者の顕彰及び学术交流・情報交換を目的に、優秀論文表彰式・研究報告会を開催しました。(P16掲載)



■公開講演会 開催

一般消費者及び生命保険業界関係者を対象に、生命保険及び関連分野に関する動向などの情報提供を目的として、公開講演会を開催しています。

今回は2025年2月に早稲田大学理事・法学学術院教授の菊池 馨実氏に「全世代型社会保障の時代における社会保障改革の動向」をテーマにご講演いただきました。(P17掲載)



消費者啓発・情報提供活動

生活設計・生活保障に関する教育活動

●中学生作文コンクール

暮らしと生命保険との関わり、あるいは生命保険を通じて感じた家族のあり方などについて、中学生自身の目で見たり、聞いたり、考えたりしたことを、作文という形で文章に表現する能力を養うことを目的に、文部科学省・金融庁・全日本中学校長会の後援、生命保険協会の協賛をいただき、「わたしたちの暮らしと生命保険」を課題に作文コンクールを実施しています。本コンクールは1963年に開始し、2024年度に62回目を迎えました。2024年度は全国約1万校の中学校のうち、779校から26,241編の応募がありました。1963年度の第1回からの応募総数は112万編を超えています。

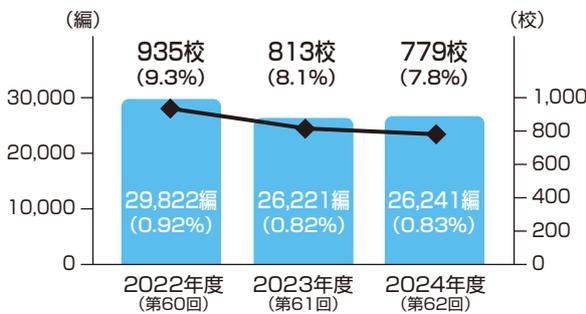
第62回(2024年度)全国賞入賞者		
●文部科学大臣賞		
富山県 黒部市立清明中学校	1年	村上 慧斗さん
●全日本中学校長会賞		
愛知県 安城市立篠目中学校	2年	増田 早紀さん
●生命保険文化センター賞		
北海道 札幌市立北都中学校	2年	吉村 美玲さん
●優秀賞		
茨城県 土浦市立土浦第四中学校	3年	岡田 陽菜さん
埼玉県 開智未来中学校	3年	藤島 繁社さん
滋賀県 近江兄弟社中学校	1年	中島 ゆずさん
京都府 京都府立洛北高等学校附属中学校	3年	藤居 空さん
奈良県 奈良市立平城中学校	2年	大久保 貴織さん



第62回文部科学大臣賞
富山県 黒部市立清明中学校 村上 慧斗さん
『生命保険の心強さ』

入賞作品は、当センターホームページでご覧いただけます。

中学生作文コンクール応募状況



* 白抜き文字は応募編数
* 応募校数の()内は全国中学校数比、
応募編数の()内は全国中学校生徒数比。

中学生作文コンクールサポート動画

作文への取組みをサポートする6つの動画を公開しています。



中学生作文コンクール
サポート動画特設サイトはこちら



●教員向け活動

・「教員対象セミナー」の開催

生活設計における保険の役割について理解を深め授業に役立てていただくため、全国の中学校・高等学校の家庭科教員及び社会科・公民科教員を対象に、会場参加とオンライン参加併用でセミナーを開催しています。

☆2024年度 夏季に東京で2回、大阪で1回開催、冬季に東京で1回開催、計153名参加

*日本損害保険協会と共催

・教員対象勉強会への講師派遣

各地の教員が所属する研究会等からの要請に応じて、副教材の活用方法及び社会保険・生命保険に関する内容をテーマとする勉強会に、無料で当センター職員を講師として派遣しています。

☆2024年度 3回開催、140名受講

*うち2回は日本損害保険協会と共催

消費者啓発・情報提供活動

●生命保険実学講座

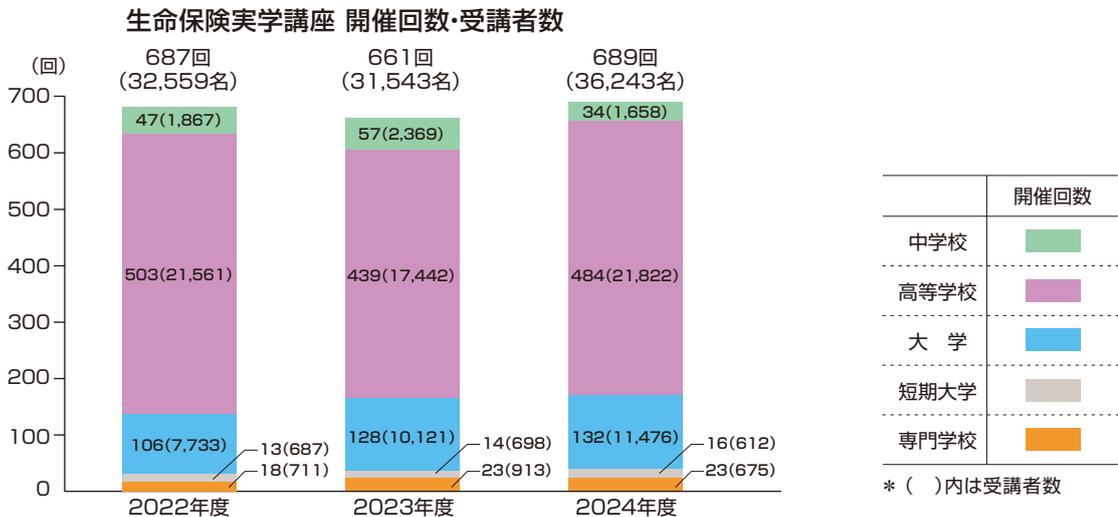
中学校、高等学校、大学、短期大学、専門学校の生徒・学生に、生活設計・生活保障に関する基礎知識を学ぶ機会を提供することを目的に、教員の協力を得て講義時間の一部を利用して、当センター職員が講師となり無料で講義を行っています。



☆2024年度 17中学校、124高等学校、77大学、13短期大学、19専門学校、計250校で689回開催、36,243名受講

*250校で689回開催した生命保険実学講座のうち、オンライン講座は35回、オンデマンド講座は57回実施

*実施校(直近5年分)についてはホームページでご覧いただけます。



《テーマ例》 「生活設計とリスク管理」「人生100年時代に必要な備えとは?」「成年になるということ」「事例から考えるリスクマネジメント」「自助・共助・公助について考えよう」等

《受講者の感想》 *一部抜粋で記載

- ・「生活設計やリスク管理について学び、自分の将来について改めて考えるよい機会となった。」
- ・「必要な保障は人それぞれなので、生活設計をしっかりと考えることは大切だと思った。」

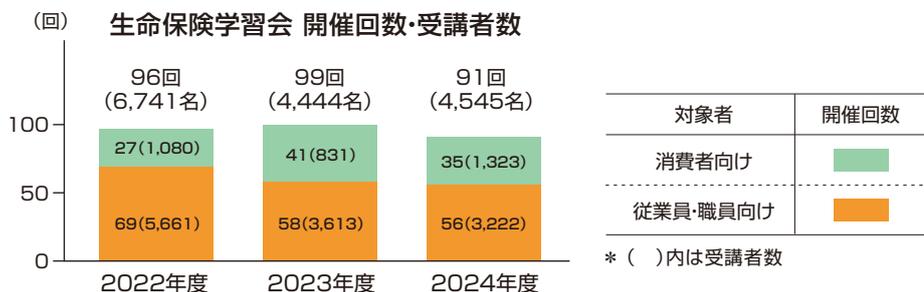
●生命保険学習会

全国各地の消費者行政機関や企業・官公庁等からの要請に応じて、社会人を対象に、生命保険の適切な利用方法や生活設計、年金・医療等をテーマとした学習会や研修会等に、無料で当センター職員を講師として派遣しています。

☆2024年度 91回開催、4,545名受講

*91回開催した生命保険学習会のうち、オンライン講座は10回、オンデマンド講座は4回実施

*消費者向けの学習会講師派遣先(直近5年分)についてはホームページでご覧いただけます。



生命保険学習会では、「生命保険の契約にあたっての手引」「保険金・給付金の請求から受取りまでの手引」について案内を行い、生命保険の理解促進に努めています。

*これらの手引はホームページでご覧いただけます。

各種手引の
詳細はこちら



生命保険の契約にあたっての手引



保険金・給付金の請求から受取りまでの手引



講師派遣（オンライン講座・オンデマンド講座を含む）のお申込みは

ホームページの「講師派遣のご案内」コーナーから、「WEB申込」または「講師派遣申込用紙」でお申込みいただけます。会場への講師派遣とあわせて、Zoom等を活用した双方向によるオンライン講座や講義を収録した動画を提供するオンデマンド講座も実施しています。

お問い合わせ TEL(03)5220-8517 講師派遣担当まで(9:00~17:00 土・日・祝日、年末年始を除く)

学校教育用副教材

中学校・高等学校・大学向けの副教材を作成し、希望する学校・教員に無償で提供しています。

各種副教材の詳細はこちら



<中学校向け>

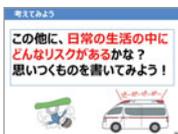
〔冊子〕



「生命保険って何だろう？」
(B5判、30ページ)

☆2024年度
提供部数 42,207部

【家庭科等向け】



★「リスクに備える」

【社会科向け】



★「人生100年時代に必要な備えとは？」

<高等学校向け>

〔冊子〕



「君とみらいとライフプラン」
・生徒用ワークブック(B5判、26ページ)
・教員用手引き(A4判、32ページ)

☆2024年度
提供部数 122,380部(生徒用ワークブック)
1,522部(教員用手引き)

【家庭科向け】



★「生活設計とリスクへの備え」 ★「事例から考えるリスクマネジメント」

【公民科向け】



★「自助・共助・公助について考えよう」

<大学向け>

〔冊子〕



「生活設計とリスク管理」
(A4判、24ページ)

☆2024年度
提供部数 11,153部

【全科目共通】



★「成年になるとということ」



【全科目共通】



★「参考スライド集」



* プレゼンテーション資料に生徒用ワークシートと50分授業展開案をセットにしてホームページで提供しており、ダウンロードも可能です(該当資料は★印)。また、「参考スライド集」を使い、各種副教材を自由にカスタマイズすることが可能です。

消費者啓発・情報提供活動

●「ほけんのキホン for Beginners」による若年社会人に対する教育

若年社会人向けの生活設計・生活保障教育の一環として、専門高校等の主に卒業を控えた生徒や保健所・保健センター等を通じた子育て世代を対象に、「ほけんのキホン for Beginners」を無償配布しました。あわせて、本冊子による解説講座を開催しました。

☆2024年度 <頒布部数> 149,893部
<解説講座> 専門高校等の主に卒業を控えた生徒:34校・56回開催、子育て世代:5回開催

*上記記載の「専門高校等の主に卒業を控えた生徒を対象とした講座」はP7の生命保険実学講座の実績回数に、「子育て世代向けの講座」はP7の生命保険学習会の実績回数に、それぞれ含まれます。

●冊子「ほけんのキホン for Beginners」(A5判、12ページ)



【高校生・新社会人向け】



【子育て世代向け】



ほけんのキホン for Beginners
電子版冊子のダウンロードはこちら



高校生・新社会人向け



子育て世代向け

*2025年度からは、電子版のみの提供となります。

消費者団体等との連携・交流活動

●消費生活相談員等への情報提供

・相談員等を対象とした勉強会の実施

1) 相談員勉強会

各地の消費者行政機関の窓口等で相談業務に携わる消費生活相談員や消費者団体が行う生命保険の勉強会等に、無料で当センター職員を講師として派遣しています。

☆2024年度 15回開催、685名受講

2) 相談員等の地域別講習会

相談員等への定期的な情報提供機会を拡大することを目的に、全国消費生活相談員協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会とそれぞれ連携し、地域別講習会を開催しています。

☆2024年度 8回開催、156名受講

3) 暮らしの設計講習会等

日本消費者協会とタイアップし、消費生活コンサルタント等を対象に、生命保険に関する情報提供と相談業務に役立つ有益な知識の付与を目的に、暮らしの設計講習会を1983年度以降毎年開催しています。また、「消費生活コンサルタント養成講座」への講師派遣も行っています。

☆2024年度 2回開催、20名受講

*消費生活コンサルタントは、日本消費者協会が主催する消費生活コンサルタント養成講座の修了者

4) 消費者行政等との意見交換会の場を活用した勉強会

全国54地域で実施する消費者行政等との意見交換会の場を活用し、行政担当者や消費生活相談員に対して勉強会を開催しています。

☆2024年度 51回開催、502名受講

相談員等対象の勉強会 開催回数・受講者数



* P9、P10「相談員等を対象とした勉強会の実施」に記載の1)～4)の合計

・「生命保険・相談マニュアル」の提供

消費者からの相談業務に携わる消費生活相談員に役立てていただくことを目的として1985年の初版作成から改訂を重ねています。また、相談員等を対象とした勉強会でも積極的に本マニュアルを使用し、活用促進を図っています。

- 「生命保険・相談マニュアル」
(A4判、212ページ)
* 2021年9月改訂版



ホームページの「消費生活相談員向けコンテンツ」でも「生命保険・相談マニュアル」の全ページを閲覧できます。

消費生活相談員向け
コンテンツはこちら



●消費者団体及び各種団体等との交流・連携

・消費者団体等との交流

国民生活センター、全国消費生活相談員協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会等の消費者団体との意見交換会に出席し、連携強化を図っています。

・日本消費者教育学会との連携

消費者教育の発展を目的に、日本消費者教育学会が推薦する消費者教育に関する優れた研究に対し、副賞として「生命保険文化センター賞」を授与しています。

2024年度受賞者：河原 佑香氏 (消費者教育支援センター)
坂本 有芳氏 (鳴門教育大学大学院)
堀江 雅子氏 (岐阜総合学園高等学校)

消費者啓発・情報提供活動

出版活動

生活設計、生命保険、医療・年金等に関する最新かつ有用な情報を、各種小冊子を通じて提供しています。2024年度の頒布部数の合計は約10.1万部(電子書籍を含む)となり、多くの方にご利用いただいています。ホームページ「消費者向け出版物(小冊子)の紹介」のページでは各冊子の目次や特徴等を紹介しています。

小冊子紹介
ページはこちら



イラストでわかる生命保険 ほけんのキホン

〈2022年6月改訂〉

生命保険の仕組みや活用方法等が基礎からわかるよう、やさしく解説した基本書です。

☆2024年度の頒布部数 9,012部

(B5判、64ページ、頒価200円。税込価格、以下同じ)



遺族保障ガイド -『万一』に備える生命保険活用術-

〈2023年11月改訂〉

万一の死亡に備えて遺族年金等の公的保障や企業保障をはじめ、個人で備える生命保険の活用方法、相続・遺言・生前贈与等について解説しています。

☆2024年度の頒布部数 6,665部

(B5判、56ページ、頒価200円)



ねんきんガイド -今から考える老後保障-

〈2024年6月改訂〉〈2025年6月改訂〉

公的年金制度の基礎知識と、個人年金保険の仕組み等について、事例や図表を用いて解説しています。

☆2024年度の頒布部数 23,813部

(B5判、68ページ、頒価200円)



医療保障ガイド -病気やケガに備える生命保険活用術-

〈2025年4月改訂〉

公的医療保険制度の基礎知識、6つの事例でみる入院費用、医療費等に備える生命保険の活用方法を解説しています。

☆2024年度の頒布部数 5,593部

(B5判、56ページ、頒価200円)



介護保障ガイド - これからの介護リスクに備えるために -

〈2024年10月改訂〉

公的介護保険制度の基礎知識や介護サービス利用時の費用、生命保険会社が取り扱う介護保険の仕組み等について、事例や図表を用いて解説しています。

☆2024年度の頒布部数 10,623部

(B5判、52ページ、頒価200円)



知っておきたい 生命保険と税金の知識

〈2024年4月改訂〉

生命保険に関する税金について、事例をもとに、税金の種類・計算方法をわかりやすく解説しています。

☆2024年度の頒布部数 25,220部

(B5判、60ページ、頒価200円)



ライフプラン情報ブック - データで考える生活設計 -

〈2025年2月改訂〉

ライフイベント(結婚、出産・育児、教育、住宅取得)や、いざという時(死亡、病気・ケガ、老後、介護)に備える上で参考となる情報をまとめたデータ集です。

☆2024年度の頒布部数 14,094部

(B5判、60ページ、頒価200円)



定年Go! - 40代・50代で考えるセカンドライフ -

〈2023年4月改訂〉

40代以降の会社員や公務員の方を対象に、定年後を見据えた生活設計や生命保険の活用方法をわかりやすく解説しています。

☆2024年度の頒布部数 5,558部

(B5判、60ページ、頒価200円)

小冊子のお申込みは

ホームページ「消費者向け出版物(小冊子)の紹介」のページからお申込みいただけます。
また、FAX・郵送(ホームページに申込用紙あり)でお申込みいただくことも可能です。
(送料は別途ご負担いただけます。)

お問い合わせ TEL(0570)062-862 (9:00~17:00 土・日・祝日、年末年始を除く)

次の書店(一部の店舗)でも取り扱っています。
Amazon、紀伊國屋書店、ジュンク堂書店、丸善、有隣堂

小冊子の電子版をAmazon Kindleストアで販売しています。

消費者啓発・情報提供活動

ホームページによる情報提供活動

●ホームページによる情報提供の充実

2022年度	・ 公的年金制度の改正に対応し「e-ライフプランニング」を更新 ・ 「ひと目でわかる生活設計情報」「生命保険を知る・学ぶ」の内容充実
2023年度	新規コンテンツ「生命保険の種類(主契約・特約・その他)」を公開、主契約17種類、特約23種類、その他6種類の生命保険商品に関する説明を掲載
2024年度	「ひと目でわかる生活設計情報」の一部内容を整理し、見やすさを向上

ひと目でわかる
生活設計情報は
こちら

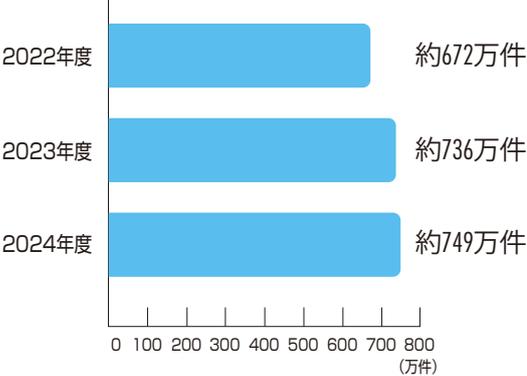


ホームページ (<https://www.jili.or.jp/>)

ホームページ
はこちら



ホームページの年間アクセス件数



* アクセス件数は、2022年度まではユニバーサルアナリティクス、2023年度からはGoogle アナリティクス4で計測した数値。

●メールマガジンの配信

消費者、消費者行政関係者、学校関係者、出版物申込者等にタイムリーに適切な情報提供を行うため、生命保険や生活設計、社会保障制度や税制改正等の情報を掲載したメールマガジンを月2～3回(年間38回)配信しました。

登録は、ホームページの「メールマガジン」からお願いします。

☆2024年度末の登録者数 29,714名

メールマガジン
の登録はこちら



●「WEBマガジン」の掲載

消費者関係団体職員、大学教授及び税理士等による生命保険や生活設計、社会保障制度等に関する「エッセイ」と、中学校・高校における生活設計教育や金融教育等の授業実践事例を紹介する「教育の現場から」を掲載しました(「エッセイ」12回、「教育の現場から」5回掲載)。

●WEBシミュレーションツール「e-ライフプランニング」の公開

消費者の生活設計意識の向上とライフステージに応じた生活設計をサポートするため、生年月日等の基本情報とともに具体的な収入・支出項目を入力することで、現在のライフステージにおけるライフプランを簡単に作成することができる「e-ライフプランニング」を公開しています。

e-ライフプラン
ニングはこちら



動画・X(旧Twitter)による情報提供

冊子やホームページで提供している情報をもとに、生命保険契約や税金、若者世代向けや子育て世代向けの保障に関する動画などを当センターYouTube公式チャンネルで公開しています。また、プレスリリースの内容を中心にX(旧Twitter)への投稿による情報発信を行っています。



YouTube
公式チャンネルは
こちら



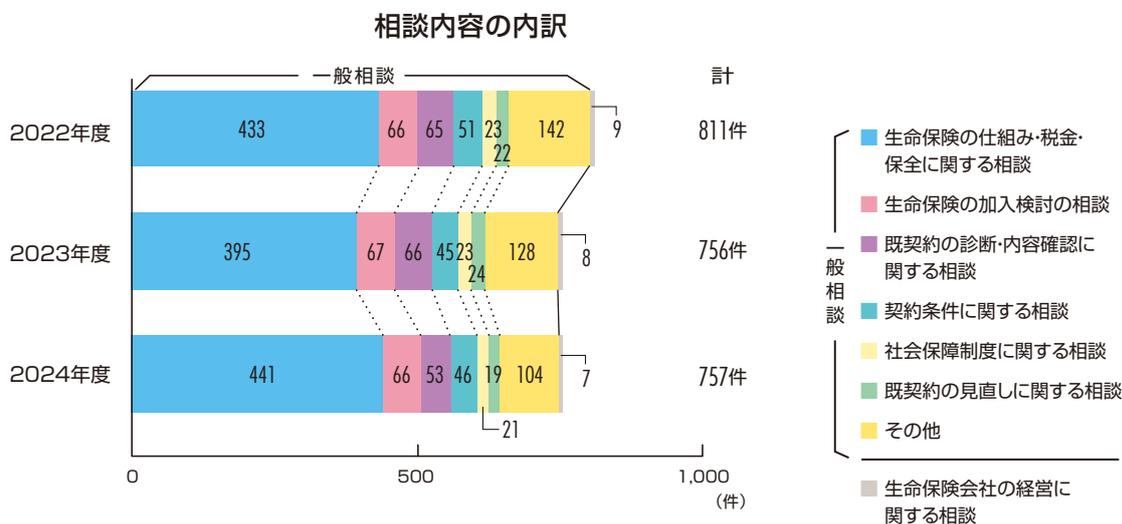
公式
X(旧Twitter)は
こちら



相談対応活動

消費者からの生命保険に関する相談に対し、公正・中立な立場から情報提供と助言を行っています。内容としては、「生命保険の仕組み・税金・保全に関する相談」が過半数となっています。寄せられた相談は集計分析のうえ、上期版と年度版の年2回「生命保険相談レポート」にまとめ、当センターホームページにて公開しています。

*「生命保険相談レポート」はホームページでご覧いただけます。



生命保険に関する一般的なご相談は

電話・来訪による相談を受け付けています。

相談電話 TEL(03)5220-8520
9:30~16:00(土・日・祝日、年末年始を除く)

来訪相談 予約制(ご予約される場合は、上記電話相談窓口までご連絡ください)
10:00~16:00(土・日・祝日、年末年始を除く)

生命保険各社の商品パンフレット、ご契約のしおり(定款・約款)を取りそろえており、閲覧いただくことができます。

学術振興事業

保険研究の活性化に向けた取組み

●研究会

学識者、弁護士、生命保険業界実務家等をメンバーとして、保険に関する研究会を運営しています。現在、対面及びオンラインで研究会を実施しています。

保険事例研究会 <東京、大阪>

生命保険を中心とした保険全般に関する最新の判例について研究。

座長 東京：山下 友信氏(東京大学名誉教授)*

*2025年4月から潘 阿憲氏(法政大学法学部教授)に交代

大阪：竹瀨 修氏(立命館大学法学部特任教授)

☆2024年度 東京・大阪でそれぞれ9回開催

《テーマ例》「保険金受取人変更についての約款規定の効力」

「『保険金を相続させる』遺言が保険金受取人変更の意思表示と認められた事例」

生保・金融法制研究会 <大阪>

生命保険・金融に関する法制全般について研究。

座長 洲崎 博史氏(同志社大学大学院司法研究科教授)

☆2024年度 5回開催

《テーマ例》「保険相互会社による相互保険と商行為性の問題

—付論 今日における生命保険相互会社と生命保険株式会社—」

生命保険会計研究会

国際会計基準審議会(IASB)における審議等を踏まえつつ、生命保険会計や会計全般について研究。

座長 弥永 真生氏(明治大学専門職大学院会計専門職研究科専任教授)

☆2024年度 5回開催

《テーマ例》「IFRS9/17の初年度適用分析」

生保関係法制研究会<東京>

生命保険を中心とした金融関連法について研究。

座長 野村 修也氏(中央大学法科大学院教授)

☆2024年度 6回開催

《テーマ例》「経済安全保障制度と生保事業」

生命保険基本判例研究会

生命保険各社の次代を担う中堅職員を対象に、基本的な保険判例の理解力と生命保険約款解釈の基礎的能力の向上を図り、育成に寄与することを目的として基本的な判例について研究。

指導者 潘 阿憲氏(法政大学法学部教授)
 山下 典孝氏(青山学院大学法学部教授)
 遠山 聡氏(専修大学法学部教授)
 岡野谷 知広氏(河村法律事務所弁護士)*

*2025年4月から天野 康弘氏(柏木・天野法律事務所弁護士)に交代

☆2024年度 8回開催(2年間16回で1シリーズ)

《テーマ例》「重大事由による解除、反社会的勢力の排除(暴排条項の有効性・適用)」

家族が多様化する時代の保険のあり方に関する研究会

〈2023年4月～2025年3月〉

多様なライフコースを前提とした生命保険の役割、市場、商品や加入経路等の変化を捉えるべく、代表的な標準モデルではない層(生涯独身者や離別者など)にも着目し、必要とする保障や支援について幅広く検討。

座長 山田 昌弘氏(中央大学文学部教授)

☆2024年度 5回開催

《テーマ例》「生命保険金受取人の親族原則はモラル・リスクを排除できるか
 —同性カップルへの例外拡大プロセスの検討」

●研究助成

生命保険及びこれに関連する研究支援を目的に、若手研究者及び一般研究者(教授等)を対象に助成金を支給しています。

	2022年度	2023年度	2024年度
若手	11件	8件	7件
一般	2件	5件	6件

2022年度に研究助成を行い2023年度に発表された成果論文を審査し、次の研究助成者に研究奨励賞を授与しました。受賞者による研究報告会を実施するとともに、表彰式を開催し、顕彰しました。

《研究奨励賞》

荒木 千秋氏(大阪電気通信大学メディアコミュニケーションセンター特任講師)
 研究テーマ：多様化する生命保険加入チャンネルと加入行動 —保険リテラシーの視点—



学術振興事業

学術交流の促進に向けた取組み

●保険学セミナー・保険学セミナー懇談会 <東京、大阪>

「保険学セミナー」は大学研究者の研究発表・討議の場として、また、「保険学セミナー懇談会」は大学研究者への生命保険業界情報の提供の場として、それぞれ運営しています。現在、対面及びオンラインでセミナーを実施しています。

幹事 東京：得津 晶氏(一橋大学大学院法学研究科教授)

柳瀬 典由氏(慶應義塾大学商学部教授)

大阪：原 弘明氏(関西大学法学部教授)

石田 成則氏(関西大学政策創造学部教授*)

*2024年度当時(2025年度から東京経済大学経営学部教授)

☆2024年度 保険学セミナー及び保険学セミナー懇談会を東京、大阪でそれぞれ年6回開催

《テーマ例》(保険学セミナー)

「健康増進型保険におけるインセンティブ効果に関する経済分析」

「フランス保険法典の強行法規性」

(保険学セミナー懇談会)

「女性活躍推進に係る政策動向と生命保険業界における状況」

「景品表示法の改正動向と生命保険の実務について」

●公開講演会

一般消費者及び生命保険業界関係者を対象に、生命保険及び関連分野に関する動向等の情報提供を目的とした講演会を、会場参加とオンライン参加併用で2025年2月に開催しました。

テーマ：「全世代型社会保障の時代における社会保障改革の動向」

講師：菊池 馨実氏(早稲田大学理事・法学学術院教授)

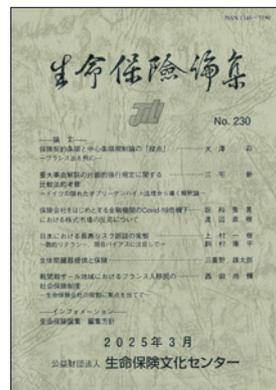


情報提供活動

●生命保険論集

保険学の発展に資することを目的に、生命保険を中心とした保険全般に関する研究論文集を発行しています。

☆2024年度は6月、9月、12月、3月の4回発行(年間6,000円。税、送料込)



●生命保険判例集

保険法の研究、保険会社の実務やコンプライアンス推進に資することを目的に、生命保険判例集を発行しています。

☆2025年3月、「生命保険判例集第28巻」発行(2019~2020年の判例85件収録、CD-ROM 786ページ、頒価9,000円 税込、送料別)



●保険事例研究会レポート

「保険事例研究会」の成果をレポート形式で発行しています。

☆2024年度は9回発行(年間6,000円。税、送料込)



各出版物のお申込みは、12ページ記載の「ホームページ、FAX、郵便」で承ります。

●WEB版「生命保険用語英和・和英辞典」

ホームページに掲載しているWEB版「生命保険用語英和・和英辞典」についてメンテナンス(新語の掲載、掲載語の修正)を行い、2項目掲載しました。

調査・研究活動

「生命保険に関する全国実態調査」(第21回)

生命保険の加入実態を中心に、生命保険・生活保障に対する考え方を3年ごとに時系列で把握することを目的に、1965年から実施しています。2024年度からは、既存の2人以上世帯を対象とする調査に加え、新たに単身世帯を対象とする調査も実施しました。

2024年度に行った調査結果は以下のとおりです(速報版11月、報告書1月発行)。(2024年度版より報告書はWeb版のみ公開)

[調査設計の概要]		
	[2人以上世帯]	[単身世帯]
(1)調査地域	全国(400地点)	全国
(2)調査対象	世帯員2人以上の一般世帯	単身世帯20~79歳男女個人
(3)回収数	4,000	2,200
(4)抽出方法	層化二段無作為抽出法	調査会社のモニター(地域、性、年齢割付)
(5)調査方法	留置調査(訪問留置、訪問回収法)	インターネット調査
(6)調査時期	2024年4月5日~5月26日	2024年4月5日~4月9日

《新聞等への掲載》
時事通信(2024年11月27日)、
朝日新聞(2025年3月1日)、
下野新聞(2025年3月2日)、
中国新聞(2025年3月16日) 他

[主な調査結果]

*詳しくはホームページをご覧ください (<https://www.jili.or.jp/>)

●生命保険(個人年金保険を含む)の世帯加入率は2人以上世帯では89.2%と前回調査とほぼ同水準、単身世帯では45.6%

生命保険(個人年金保険を含む)の世帯加入率について、2人以上世帯では全生保は89.2%(前回調査89.8%)、民保ベースでは79.9%(前回調査80.3%)であった。一方、単身世帯についてみると、生命保険(個人年金保険を含む)の世帯加入率は全生保でみると45.6%、民保ベースでは37.3%であった。

生命保険(個人年金保険を含む)の世帯加入率 (%)

		全生保	民保	簡保	JA	県民共済・生協等
2人以上世帯	2024年	89.2	79.9	4.7	7.1	30.0
	2021年	89.8	80.3	7.4	9.5	31.6
単身世帯	2024年	45.6	37.3	3.4	3.1	10.6

●2人以上世帯における民保加入世帯の医療保険の世帯加入率は95.1%、前回調査と比べ1.5ポイント増加

民保加入世帯(かんぽ生命を除く)における特定の保障機能を持つ生命保険や特約の世帯加入率をみると、2人以上世帯では、「医療保険・医療特約」が95.1%と最も多くなっており、前回調査よりも1.5ポイント増加した。一方、単身世帯をみると、「医療保険・医療特約」が67.2%と最も多く、次いで「ガン保険・ガン特約」が39.1%となっている。

民保の特定の保障機能を持つ生命保険や特約の加入率(民保加入世帯ベース・複数回答) (%)

		医療特約 医療保険・ ガン特約	ガン保険・ ガン特約	特定疾病保障特約 特定疾病保障特約	特定損傷特約	重度慢性疾患保障特約 疾病障害特約	介護特約 介護特約	通院特約	生活障害・就業不能保障特約 生活障害・就業不能保障特約	認知症特約 認知症特約	健康増進型特約 健康増進型特約	先進医療特約
2人以上世帯	2024年	95.1	68.2	50.4	24.7	15.1	20.1	36.9	17.2	7.6	5.6	54.0
	2021年	93.6	66.7	48.4	28.8	15.9	16.7	39.1	18.4	6.6	4.2	—
単身世帯	2024年	67.2	39.1	18.5	3.5	1.4	6.8	10.3	3.1	1.8	2.1	22.1

●2人以上世帯における生命保険(個人年金保険を含む)の世帯年間払込保険料は平均35.3万円と前回調査とほぼ同水準

●直近加入契約の加入チャネルで最も多いのは、2人以上世帯、単身世帯ともに「生命保険会社の営業職員」

「ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査」(第2回)

多様化する長寿社会に対する高年齢層の考え方、生活の実態・意向等を把握し、これからの長寿社会のあり方を検討することを目的に、2020年から実施しています。

2023年度に行った調査結果は以下のとおりです(報告書12月発行)。

(A4判、235ページ、頒価 2,200円 税込)

[調査設計の概要]

(1) 調査地域	全国(200地点)
(2) 調査対象	60歳以上の男女個人
(3) 回収数	2,084
(4) 抽出方法	層化二段無作為抽出法
(5) 調査方法	留置調査(訪問留置、訪問回収法)
(6) 調査時期	2023年4月6日～5月28日

《新聞等への掲載》

時事通信(2023年12月21日)、
奈良新聞(2023年12月28日)、
伊勢新聞(2023年12月31日)、
上毛新聞(2024年1月31日) 他

[主な調査結果]

*詳しくはホームページをご覧ください (<https://www.jili.or.jp/>)

●経済的不安は「介護保障」「老後保障」「医療保障」の順で高い

生活保障に関する不安について尋ねたところ、最も不安感が高いのは「自分の介護への経済的不安」(65.9%)であり、「退職後の生活資金不安」(60.6%)、「自分の病気やケガへの経済的不安」(59.6%)と続いており、生活保障面において介護や健康に関する不安意識は高い。

生活保障不安 (%)

	N	退職後の生活資金不安	自分の病気・ケガへの経済的不安	自分の介護への経済的不安	自分が万一の際の経済的不安
2023年	2,084	60.6	59.6	65.9	43.6
2020年	2,083	58.5	61.9	66.9	41.9

●人生全般において後悔している事項は「学び」「貯蓄」「運動」の順

これまでの人生を振り返って「しておけばよかった」と思う項目についてみると、「学び」が 57.1%と最も多く、次いで、「貯蓄」が 54.2%、「運動」が 43.6%の順となっている。

「個票データの学術的活用の促進」

学部生や修士課程の大学院生を対象に個票データを用いた懸賞論文の募集を行い、学術振興委員による審査を経て、以下のとおり優秀論文賞1件を決定しました(表彰式は2025年5月にオンラインで実施しました)。

《優秀論文賞》

青木 拳太朗氏(2024年度早稲田大学商学部 星野明雄ゼミ)、

榎本 侑一郎氏(同上)

研究テーマ：生命保険加入の要因に関する研究



青木 拳太朗氏



榎本 侑一郎氏

役員・組織図、活動小史

2025年6月30日現在(敬称略)

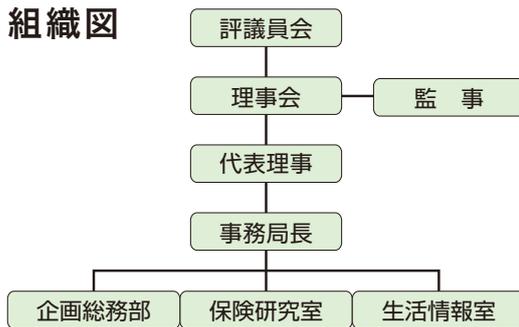
評議員

評議員会会長	家森 信善	神戸大学経済経営研究所教授
評議員	加々美 光子	加々美法律事務所弁護士
//	竹瀨 修	立命館大学法学部特任教授
//	中林 真理子	明治大学商学部教授
//	西村 周三	京都大学名誉教授、京都先端科学大学名誉教授
//	西村 隆男	横浜国立大学名誉教授
//	堀田 一吉	慶應義塾大学教授
//	増田 悦子	公益社団法人全国消費生活相談員協会顧問
//	吉國 浩二	学校法人先端教育機構社会構想大学院大学理事・学長
//	朝日 智司	日本生命保険相互会社代表取締役社長 社長執行役員
//	隅野 俊亮	第一生命保険株式会社代表取締役社長
//	高田 幸徳	住友生命保険相互会社取締役代表執行役社長
//	永島 英器	明治安田生命保険相互会社取締役代表執行役社長

役員

代表理事	小原 広之	(常 勤)	
理 事	東 珠実	(非常勤)	相山女学園大学現代マネジメント学部教授
//	天野 晴子	(非常勤)	日本女子大学家政学部長・教授
//	石田 成則	(非常勤)	関西大学政策創造学部名誉教授、 東京経済大学経営学部教授
//	鈴木 みき	(非常勤)	光和総合法律事務所シニアパートナー弁護士
//	得津 晶	(非常勤)	一橋大学大学院法学研究科教授
//	柳瀬 典由	(非常勤)	慶応義塾大学商学部教授
//	山下 徹哉	(非常勤)	京都大学大学院法学研究科教授
//	吉田 朋広	(非常勤)	東京大学大学院数理科学研究科教授
//	赤堀 直樹	(非常勤)	日本生命保険相互会社代表取締役副社長執行役員
//	海老名 敦尚	(非常勤)	メットライフ生命保険株式会社執行役員
//	貴内 崇文	(非常勤)	ジブラルタ生命保険株式会社執行役員
//	高尾 延治	(非常勤)	住友生命保険相互会社執行役常務
//	竹内 章二	(非常勤)	第一生命保険株式会社取締役常務執行役員
//	山下 奈保子	(非常勤)	ソニー生命保険株式会社取締役執行役員常務
//	渡辺 俊哉	(非常勤)	明治安田生命保険相互会社常務執行役
//	野村 英治	(常 勤)	生命保険文化センター理事事務局長
監 事	佐藤 和弥	(非常勤)	税理士法人西村会計事務所公認会計士
//	小野 貴裕	(非常勤)	朝日生命保険相互会社取締役常務執行役員
//	谷中 伸行	(非常勤)	大同生命保険株式会社代表取締役副社長

組織図



活動小史

年度	主な活動内容
2022	10月 「第16回生活保障に関する調査」速報版発行(3月報告書発行)
	11月 中学生作文コンクール第60回記念会表彰式開催
	2月 「生命保険判例集第26巻(CD-ROM)」発行
	3月 大学生向け講義展開案(3種類)完成
2023	11月 保険教育に関する包括連携協定締結
	12月 「ライフマネジメントに関する高年齢層の意識調査(第2回)」報告書発行
	2月 「生命保険判例集第27巻(CD-ROM)」発行
	3月 参考スライド集完成
2024	11月 「第21回生命保険に関する全国実態調査」速報版発行(1月報告書発行)
	3月 カードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」完成
	3月 「生命保険判例集第28巻(CD-ROM)」発行

財務諸表

貸借対照表

2025年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産	103,049,204	123,055,796	△ 20,006,592
2. 固定資産			
1) 基本財産	516,361,410	516,361,410	0
2) 特定資産	259,388,930	249,041,189	10,347,741
3) その他固定資産	27,361,565	35,857,113	△ 8,495,548
固定資産合計	803,111,905	801,259,712	1,852,193
資産合計	906,161,109	924,315,508	△ 18,154,399
II. 負債の部			
1. 流動負債	17,644,905	28,648,932	△ 11,004,027
2. 固定負債	305,349,139	298,567,320	6,781,819
負債合計	322,994,044	327,216,252	△ 4,222,208
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産	516,361,410	516,361,410	0
2. 一般正味財産	66,805,655	80,737,846	△ 13,932,191
正味財産合計	583,167,065	597,099,256	△ 13,932,191
負債及び正味財産合計	906,161,109	924,315,508	△ 18,154,399

正味財産増減計算書

2024年4月1日から

2025年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	3,354,962	3,354,962	0
②特定資産運用益	1,468,000	1,353,255	114,745
③受取会費	512,512,000	512,512,000	0
④事業収益	21,613,772	21,895,916	△ 282,144
⑤受取補助金等	10,400,000	8,100,000	2,300,000
⑥雑収益	66,000	957,363	△ 891,363
経常収益 計	549,414,734	548,173,496	1,241,238
(2) 経常費用			
①事業費	491,230,458	453,998,310	37,232,148
②管理費	71,861,122	63,990,519	7,870,603
経常費用 計	563,091,580	517,988,829	45,102,751
当期経常増減額	△ 13,676,846	30,184,667	△ 43,861,513
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	255,345	0	255,345
当期経常外増減額	△ 255,345	0	△ 255,345
当期一般正味財産増減額	△ 13,932,191	30,184,667	△ 44,116,858
一般正味財産期首残高	80,737,846	50,553,179	30,184,667
一般正味財産期末残高	66,805,655	80,737,846	△ 13,932,191
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	516,361,410	516,361,410	0
指定正味財産期末残高	516,361,410	516,361,410	0
III. 正味財産期末残高	583,167,065	597,099,256	△ 13,932,191

会員会社

2025年6月30日現在(会社名50音順)

アクサ生命保険株式会社
朝日生命保険相互会社
アフラック生命保険株式会社
イオン・アリアンツ生命保険株式会社
SBI生命保険株式会社
エヌエヌ生命保険株式会社
FWD生命保険株式会社
オリックス生命保険株式会社
カーディフ生命保険株式会社
株式会社かんぽ生命保険
クレディ・アグリコル生命保険株式会社
ジブラルタ生命保険株式会社
住友生命保険相互会社
ソニー生命保険株式会社
SOMPOひまわり生命保険株式会社
第一生命保険株式会社
第一フロンティア生命保険株式会社
大樹生命保険株式会社
大同生命保険株式会社
太陽生命保険株式会社
チューリッヒ生命保険株式会社
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社
東京海上日動あんしん生命保険株式会社
なないろ生命保険株式会社
ニッセイ・ウェルス生命保険株式会社
日本生命保険相互会社
ネオファースト生命保険株式会社
はなさく生命保険株式会社
富国生命保険相互会社
フコクしんらい生命保険株式会社
プルデンシャル生命保険株式会社
PGF生命(プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社)
マニユライフ生命保険株式会社
三井住友海上あいおい生命保険株式会社
三井住友海上プライマリー生命保険株式会社
みどり生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社
メットライフ生命保険株式会社
メディケア生命保険株式会社
ライフネット生命保険株式会社
楽天生命保険株式会社

 公益財団法人 生命保険文化センター 

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル3階
TEL(03)5220-8510[代表] FAX(03)5220-9090
<https://www.jili.or.jp/>


古紙パルプ配合率60%再生紙を使用



2025.7発行/4,000